



國勢調査と選舉

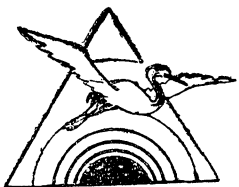
縣會議員選舉は、今秋九月二十五日を以て執行され、次いで十月一日には國勢調査が行はれる。その間、僅かに五日、しかもこの選舉に於ける最後の五分時とも稱すべき最も重要期にある九月二十一日、縣下六千七百の調査員によつて準備調査が一齊に行はれる。勿論、調査員は戸別訪問の上、親しく各戸につき調査を行ふものである。

しかしして是等國勢調査員は、有能公正なる統計調査員と、地方有志を以て之に充て、調査の遂行に遺憾なきを期するものであるが、斯の如く地方の中堅人物が、選舉間際に、大ビラで戸別訪問が出来るといふところから、たとへ意識的に選舉運動がましき行爲に出てざる迄も、その一擧一笑すら取りやうによつては重大なる意味を、相手方に感得させる懼れがあるとなし、杞憂を抱くものあるやに聞く。

一應尤もらしいことではあるが、少くとも統計調査員にありては、平素の訓練も届いてゐる、國勢調査が重要な國家事業であつて、その一部を擔當する調査員の任務の如何に重大であり、誠實一途決して他意あるべからざる位は夙に辨へてゐる筈だ。

我等は常に統計調査員諸君に全幅の敬意を表し、萬遺策なかるべきことを信ずるものであるが、偶々選舉の異常時に際會するのであるから、思はざる誘惑等絶無とも限らない、此の上とも層一層戒心して職務を遂行するやう特に注意すべきである。

況んや選舉肅正については國を擧げての大いなる運動となつてゐる。諸君は先づ自ら相戒めて選舉も國調も、共に有終の美をなさしむるやう心されたら。



切實なる國家社會の要望

——會長就任に就て統計關係者各位に——

茨城縣統計協會長
茨城縣總務部長

山本 秋 廣

今回地方官の異動に伴ひ不肖圖らずも本縣總務部長を命ぜられ同時に會則の示す所に従ひ本會會長に就任することになりましたので此の機會に於きまして縣下統計關係者諸賢に誌上を通じて御挨拶を申述べたいと存じます。晩近時勢の進展に伴ひまして正確完全なる統計に對する國家社會の要望愈々切實となり、統計事務の刷新改善は我が國に於ける最大緊要事とされるに到りました。

御承知の通り現下の農山漁村は未曾有の不況に沈淪し、加ふるに昨年には異常なる各種の災害に遭遇し、窮乏殊に甚しきものと共に中小商工業者も亦非常なる經濟的打撃を蒙り寔に憂慮に堪えざるものがあるのでありまして、是等に對し應急的施設を爲し更に恒久的根本對策を講ずることは焦眉の急務と存ぜらるゝのであります。然して之に對する有効適切なる政策を實施するに當りましては清新確實なる各種の統計が必要なのでありまして、其の成果の如何は實に吾々統計關係者の調査の正否にありと言ふも過言ではないのであります。

米の生産統計調査にありましては昭和八年に農林省令を以て調査方法の一部が改正せられまして以來、全國的に統一せられ其の調査は一層周密となり社會的信用を著しく増大し政府の米穀政策を始め農村に對する重要政策の基礎資料として充分の成績を挙げ益々其の利用を加へて參りましたことは吾々統計に關係する者として洵に御同慶に堪えざる所でありまして、一般統計調査に於きましては尙改善の余地があるばかりでなく、一般民衆の統計に對する理解の乏しきものあるは甚だ遺憾とする所であります。

本縣に於きましては昨年十月を以て本統計協會が創立され日ならずして着々其の事業整ひ更に本誌の發刊に依り縣、市町村は勿論三千八百余名の多數に上る統計調査員に到るまで、一絲亂れざる統制の下に廣汎複雑なる各種統計調査に適確なる資料を蒐集し、其の實踐大いに見るべきものあり、且縣民の統計に對する理解の一助たらしめつゝあるは洵に欣快とする所であります、然しながら今後統計に對する國家社會の要望は益々大を加へ、且之が運用も亦愈々繁きを加ふることは事明の理で、其の調査客體並範圍も次第に廣汎となり、その内容も複雑多岐を加ふるものと存ぜらるゝのでありまして殊に産業統計の調査に於きましては、其の整備充實は國家産業の振興發展に至大の關係を有するのみならず農村經濟打開に最も緊要なるものでありますから、各位は益々協心戮力以て正確完全なる調査の作成に御盡力あらんことを希望する次第であります。

又本年は國家的大事業たる國勢調査も施行せらるゝのであります、國勢調査は人口に關する諸般の事情を調査するもので之に依り社會組織や國民生活の實況を密にし、各般の施設計畫の基礎資料を得るもので實に重要な意義を有するものであります。

本縣に於きましては既に訓令を以て臨時國勢調査部も設置せられ、余も亦之が部長として各位と共に調査事務に従事することゝなつたのであります、其の調査の成績如何は直接調査の衝に當る調査員並市町村に於ける係員の今後の努力に俟つ所蓋し頗る多いのであります、之が調査の趣旨は既に行はれたる前三回の調査に依り一般民衆に於ても充分の理解あるべきも、更に周到なる準備と細心の注意とを以て遺憾なき調査を完行致したく念願して居る次第であります。



茨城縣統計の「躍進」を希望す

農林省 堀口四良次

【一】

我が國現下の情勢は實に多事多難なる重大時局に當面してゐるのである。されば全國民が非常の決意を以て起たねばならぬ秋であると思ふ。之れを我が農林關係方面に就て觀るに、農、山、漁村の經濟的充實を顯現し、一朝有事の際に於て、後顧の憂なきを期するが如きは、焦眉の急務と謂はねばならぬ。

米穀の自治管理、或は産繭の處理統制、或は肥料の需給統制、其の他産業組合の擴充等は、政府が此の時局に處せんが爲の工作と見るべきである。又各地方に於ても、夫れ夫れ、之等施設に呼應して各種の對策を計畫樹立し、官民協力、萬全の方途を講じつつあるの状態である。

時勢を反映し、世情を語るものは、常に統計數字である。又總ての計畫施設の基礎資料と爲るものは、吾れ等掌るところの統計數字であることは勿論である。されば我が統計界も亦、非常時に當面してゐると信するのである。

然して、吾れ等は最近、數次の統計試練を経て來たのである。即ち昨年我が國は未曾有の風、雨、水、旱、早冷等の被害に襲はれて、非常に困難したのであるが、其の被害調査の仕事は、吾れ等に課せられた一つの試練であつ

たと思ふ。彼の非常な被害に遭遇し、世人がその被害の甚大なるに驚かされてゐる間に、之れ等に關する被害調査は、迅速に、吾れ等統計關與者の手に依つて、見事に集成されて、救済施設の基礎資料となつたのであるが、其の迅速にして見事なる集成振りは、近代的統計調査の賜として、世人の認むるところとなつてゐるのである。

次に被害救済對策施設の爲めには、同年十一月臨時帝國議會の開催を見たのであるが、此の臨時議會に於て、凶作地方に對して、政府米臨時交付の法律が可決されて、其の實施を見たことは既に御承知のことと思ふ、この法律の施行に當りて、吾れ等は第二の試練に遭遇したのである、即ち政府米を交付すべき凶作地方の選定は、農林省統計報告規則に依り吾れ等が調査した、昭和九年の米の統計數字等が基準として用ひられたのであるが、吾れ等統計關與者は、この年の米の統計調査に當りて、あらゆる權力、あらゆる富貴を排して、正確なる統計を作成し、國策遂行上遺憾なきを得たのである、吾れ等が統計調査理論の教ふるところに従ひ、日頃の蘊蓄を傾けて、忠實なる統計調査執行者であり得たことは、第二の統計試練を完了したものである。

偕て、政府は今回現下非常時局の對策審議等の爲め、練達堪能の士を網羅して内閣審議會を新設した。又これと共に、専らこの審議會の議に附すべき事項等調査の爲め、内閣調査局をも新設した。現在迄に農林省より内閣調査局入りをした人々は、勅任調査官として農務局長たりし小濱八彌氏、奏任調査官として農林事務官たりし和田博雄氏である。而して此の内閣調査局に於て、内閣審議會の議に附すべき事項等調査に當りては、あらゆる場合に於て先づ要求せらるゝ所のものは、恐らく統計數字であると確信せらるゝのである。

社會に對し、正確妥當なる統計の供給を爲すは、吾れ等統計關與者の任務なりと雖も今回内閣審議會、内閣調査局の新設に依つて、一層その切なるものあるべきを思はしめるのである。これは吾れ等に課せられた、第三の統計試練であると同時に、今日こそ、統計界躍進の好機なりと信するものである。

されば此の機に於て、吾れ等統計關與者は、其の責務に對する自省を新にし、統計界躍進の時流に乗じて斯界刷

新の顯現を期さねばならぬ。

【二】

統計調査の衝に當るものはいつでもそうであるべきだが、現在の如き情勢下に於て、統計調査を掌るものは、特に其の自覺を高めてかからねばならぬ。

私は、平素から私共の關與してゐる統計調査に就ては、其の關與者は、總て同一組織体を爲してゐるものであると信じてゐるものである。換言すれば中央で此の仕事に従事してゐる者も、道府縣廳でこの仕事に従事してゐる者も、市町村役場でこの仕事に従事してゐる者も、はたまた、仕事の第一線に立つて、親しく實査に従事してゐる調査員の方々も、皆同一の調査組織体の一人であると信じてゐるものである。即ち日本全國に張られた、農林統計調査網の一端を各自が受持つてゐるのであると考へてゐるのである。

されば、各自はその受持の仕事に就ては、第一人者であると同時に、其の全責任者である、従つて、此れ等關與者は、各々皆、その職務たる統計調査に就ては、如何なる權力にも屈することなく、如何なる富貴にも動ずることなく、在りのまゝを、正しく調査しなければならぬ。若し此れ等關與者の一人と雖も、正しからざる調査を爲したり、或は權力富貴等に媚びて、曲學阿世の調査を爲したりするときは、それは調査結果に、不正なる影響を與へることとなり、延いて、重大なる結果を招來することとなるのである。即ち此れ等統計數字の利用者に、正しからざる判斷を與へ、この統計數字を基礎として爲されたる、總ての立案計畫は、肯綮を逸し、施設の結果は畫餅に終るとなるのである。

軍人が戦争に従ふや、命を的に、血を流して戦ふは戦場の常である、現時に於ける統計調査は、正に戦時のそれにも比すべき非常時ではあるまいか！さればこれを極言すれば、吾れ等統計關與者は、平和の時に於ける戦士でもあると言ふことが出来るのである。非常時に於ける統計關與者よ！平和の時に於ける戦士よ！此の現實に活眼を開き、須らく、乃公茲にあらずんば吾が農林統計を如何せんか！の熱意と、誠意とを兼備せられることが肝要である。

【三】

統計調査の完璧を期するには、先づ統計關與者の熱意と誠意に俟つべきは明なるところなるも、統計調査は性質上、他の仕事と異なるところあるを以て、その理論と實務に通ぜざれば完きを得ることが出来ない。

統計調査が、他の仕事と異なるところは、調査竝に整理集計上、一種の技術を伴ふことである。山を抜く力、天地を覆ふの氣力外に、更に調査に對する充分なる理解力を備へ且つ計數的實務に通じてゐることが必要である。農林省統計調査は原則として、實地調査に依ることを建前としてゐる。それ故、實査に當りては、調査員の方々は、當業者に就き聴取する方法に依るか、又は自から受持調査區内を巡回して、各事象に就き調査する方法によりて、調査されるのである。當業者に就き、調査事項の書込を依頼し、又は聴取する際に於ては、單位觀察を爲す所以を充分に理解し、當業者に對しては調査の趣旨目的を充分に了解せしめ、その協力を得ることが必要である、この場合に於ける要領を、摘記すれば次の如き諸点が數へられる。

- 一、説明を親切に爲すこと
- 二、問ふことは分り易き様爲すこと
- 三、疑惑を生ぜしめざる様爲すこと
- 四、可成手數を掛けざる様爲すこと
- 五、妄りに秘密に立ち入らざる様爲すこと
- 六、少しく聞きて多くを知る様爲すこと
- 七、言語舉動を慎みて爲すこと

自から受持調査區を巡回して、各事象に就き調査する場合に於ける要領を、摘記すれば次の如き諸点が數へられる。

- 一、調査事項に就いて、廣く知識の涵養を爲すこと
 - 二、勞力を厭はず實査を爲すこと
 - 三、獨斷に陥らざる様爲すこと
 - 四、當業者の意見を參料すること
 - 五、記入の數字は一、二、三、一〇、一〇〇等の如き字を用ひ、壹、貳、參、拾、百等の如き字を用ひざること
 - 六、字劃は明瞭に記入し置くこと
 - 七、調査原票は之を一括し、散逸せざる様爲し置くこと
- 以上の諸点を心得て、調査に當れば、當業者も喜んで協力に應ずべく、従つて僅少の時間にて、調査を完了することと出来るのである。又自から、各事象に就き調査を爲す場合に於ても、必ずや正確妥當なる結果を得らるゝこと必然である。

次に調査票等の整理検査に當りては、調査の統一を保ち、製表の便利に備へる爲め、左記の諸点に就き注意を爲すことが必要である。

- 一、記載すべき事實のなきものは「」を附すること
- 二、單位の名稱(段、畝、歩、石、斗、升、合、貫、匁、圓、錢等)を、必ず明瞭に記入すること
- 三、數位は三位毎に「」を附すること
- 四、數が單位に満たざるものは「〇」を附すること
- 五、誤謬訂正を爲したるときは、二條線を劃し、右傍に正しき數字を明記すること
- 六、調査の日時を記入すること
- 七、調査員認印を爲すこと

次に、製表並に報告書進達等に就ては、左記の諸点に注意を爲すことが必要である。

- 一、試算を嚴密に爲し、誤算なきを期すること
- 二、比例數等を算出し、誤謬なきを期すること
- 三、或る一定又は概定の標準に對照して、正確を期すること

- 四、著しき増減あるものは其の原因を探究し、之が理由を明記すること
- 五、淨書せる報告書は、原表と嚴密に照合を爲すこと
- 六、報告期限に遅れざること
- 七、報告書の進達は、迅速に、且つ確實に、先方に到達する方法に依り進達すること
- 八、米、繭、麥に關する報告事項は、當局の指示ある迄は絶対秘密の取扱を爲し、事由の如何を問はず之が公表を爲さざること

【四】

黒潮遠く流れる太平洋をへだて、アメリカ合衆國に對し、延長四十里の海岸線を有し、北邊より西南に高鈴、八溝の山なみの走る茨城縣は、私の會遊の地である。

東海道の最東端、常陸の國で一市十一郡、下總の内三郡、この總面積三百九十八方里四四、全國各府縣中廣さの順位は第二十一位である。廣さの順位では第二十一位でこそあれ、最近(昭和八年)に於ける農産物の生産總額に於ては、七千四百四十餘萬圓を産し、全國第六位に位し、有數の農産國である。耕地面積は二十一萬餘町歩を有し、米の産額は總額に於ては全國第四位なるも、陸稻のみに就て觀るときは第二位の栃木縣を遙かに凌駕して、斷然一頭地を抜き、全國第一位を占めてゐる。又麥類の産額に於ては累年王座を占めて全國第一位である。

史實、常陸介佐竹忠義が平治年中、平清盛に封を久慈郡太田城に受けてこのかた、徳川の世、出羽へ所領替へとなるまで、先づ常陸は佐竹の支配、ついで水戸の藩祖徳川頼房以降、義公光圀、烈公齊昭を経て親藩の權威が幕末まで續いた。縣南下總の三郡の中には天慶二年、平將門が猿島で偽宮事件をひき起したのを手始めに、戰禍にあへいだ跡が少くないが、徳川の統治になつて結城に水野、古河に土井が封ぜられて、落着いた。これまでが茨城縣の舊記である。

幕末から昭和維新へ——水戸二百年來の統治に醗酵された思想と、その産業風土の感化、それは新茨城縣として

今日に連続してゐる。本縣の縣是は農林水産業に重点を置く産業立國主義である様である。歴代の長官はいづれもこの方面の殖産に力癪を入れてゐる様に見受けられる。

茨城の統計、就中産業統計の整備は、比較的近代のことに屬する様である。隣縣千葉縣の統計は、茨城縣に一步を先じて整備され、従来より全國に於ても統計治績上屈指の優秀縣である。

現在の茨城縣統計主脳部は、茲に觀るところあり、千葉縣に於て出来る統計調査が境を接した茨城縣に於て出来る筈なしのモットーを得て、昭和四年以來改善に改善を重ねて目覺ましき奮闘を續け、縣民一致努力の結果、大いに其の治績を擧げて來つゝある様である。

昨年末、茨城縣統計協會の設立を見、本年より其の機關雜誌として茨城統計を刊行し、官府統計の短を補ひ、以て官民一致協力して、縣統計界のため爲すところあらんとする様である、先頃から全國中繼にて、各府縣に於ける民謠の夕が放送されてゐるが、其の内獨り茨城縣の夕に於てのみ「躍進茨城縣民謠の夕」と題されて放送された。今や、茨城縣民は、あらゆるものに於て躍進。また躍進をつづけてゐるものゝ如くであるが、縣統計界に於ても、此の好機に際會して全國に先じ、躍進のレールに乗じ、斯界に發展されんことを祈つて止まない次第である。

思ひつきの

統計調査室

那珂郡菅谷村役場は今度元那珂郡自治會館へ移轉したが、町村の啓發は統計よりのモットーに則り、特に統計調査員の爲めに、専用室を設け、周囲の壁に縣關係者を初め、村長、主任者並に統計調査員十四名の名札を掲示して濃厚な統計気分を出して居るのは他町村に類のない思ひ付きである、此の室で隨時集合しては調査上の研究なり調査書類の整理等が行はれるさうで主任者軍司君及各調査員が一致して統計優良村を目指して非常な努力である。

勝景を追うて

房總半島から

燿ようお江戸へ

統計協會の縣外視察旅行

一 記者

隣接千葉は、統計文化の母ともいはれてゐる。

協會發達の歴史において、町村統計事務の成績において、容易に他の追隨をゆるさぬものあり、統計を語るものは先づ千葉を見て……と迄いはれて、成田の不動、犬吠岬の燈臺と共に誇る一つの名物となつてゐる。

茨城縣統計協會生れて最初の試みに、房總半島を巡つて、親しくその誇りを見究めて來よう、良きものあらば移して以て、茨城の庭に植ゑ附けて、我が統計林の補正に資するもよからう、百聞は一見に如かずといふので、千葉縣優良町村視察、即ち房總半島めぐりは企てられたのである。

若葉薫る絶好の旅季節、目ざすは内房外房の景勝を一路に繋ぐ半島回遊線、何んと恵まれた視察旅行ではないか。

六月十一日午前八時十五分水戸驛出發。

一行は、水戸、友部、石岡、土浦、取手と、それから千葉に先着の一團、縣下各郡の精銳をすぐつた同勢十餘人が或ひは三人、或ひは五人つゝ、ボツクリ／＼指定の最後部列車に乗込む。何のことはない、昔、敵討ちでもする一味の面々が人目忍んで相寄る光景に似たるものがある。一行の顔ぶれを披露しよう。

- △東茨城 (下大野村書記) 平戸清二
- △那珂 (佐野村書記) 根本富男
- △久慈 (賀美村書記) 助川國勝
- △多賀 (松原町書記) 沼田至之
- △鹿島 (諏訪村助役) 酒井守衛

- △行方 (麻生町書記) 正木邦司
- △稻敷 (高田村助役) 伊藤弘藏
- △新治 (藤澤村書記) 來栖吉一
- △筑波 (小野川村書記) 成島一男
- △眞壁 (下妻町書記) 小澤訓一
- △結城 (結城町書記) 海老原眞三郎
- △猿島 (幸島村書記) 赤岩啓四郎
- △北相馬 (東文間村書記) 板本 惠
- △統計協會(縣屬)成瀬常吉 (囑託)富岡福壽郎

堂々千葉入りの意氣

水戸を立つた我等の汽車―最後部―は特に一行のために設けられたがやう、他に乗客としては二三を數ふるのみだ。賀美の助川氏は四時起きして双輪を踏んで駈けつけた、と元氣のいゝところを披露すると、佐野の根本氏は車窓に照り込む朝陽を睨んで「海は暑いぞ、千葉へ行つたら素つ裸になつて水浴びだ」と力みながら「けさはバラ／＼やつて来たがこの月の十日から十三日迄は、統計あつて以来降つたことがねえんだから安心して草履を穿いて来たよ」と、先づ統計に結論づけて旅の幸先を壽ぐなど、至極朗らかな處へ、筑波の代表小野川の成島氏が一枚加はるに及んで、世界に名高い高層氣象觀

島小野川氏も黙りこくつてゐる。そして停車場へ着くと、たまりかねたやうに喋り出す、又だまる、又喋る。

「何だい、この邊の小麥は、俺の方ぢや見たくも見られないや、こんなもの……」

「あれは高柳！、あの高柳淳之助氏のゆかりの地かな」なんて旅に出ると妙にお里心が出るものだ。

千葉縣廳で先づ一服

行程約四十分にして不愉快な總武線を征服して船橋へ着くお茶の水行の省線がなめらかに出て行く。東京の郊外だけにすべてが明るい。

船橋から千葉へは二十五分。先着の一團と合して千葉縣廳へ。玄關前の噴水がモダンな廳舎と映りよく、同じ形容をくりかへすやうだが、如何にも明るい感じがする。

玄關には友人丹野辨五郎氏がニコ／＼と出迎へてくれた。丹野氏は仙臺の人で東日の記者だったが、千葉の統計協會が出来ると同時に囑託となり、機關雜誌を編輯し、得意の麗筆を誌上に飾つてゐる。

この日、協會では我等のために縣會議員室に席を設けられ丹野氏や統計主任の萩原屬が、給仕君を督勵して、お茶の辨當のと歡待至らざるはない。

測所の話や、所長とエスベラント等々、國際的に伸び行く郷士の誇りに話題を賑はし、囂々たる車輪の音をもクシ飛ばすやうな勢ひだ。取手驛で下妻の小澤氏が加はる。

かくして後部車輛を完全に、茨城統計色に染めあけて、大利根鐵橋を突つ走り、堂々と千葉縣へ乗り込んだ。

かうなるとまるで、敵陣目がけて驍然に――とでもいつてみたくなるが、一行の氣持ちは屹度さうであつたに違ひない千葉の優秀は聞くこと久しいが、我等が一行として、その道にかけては多年慘憺の苦心を嘗めた一騎當千のつばもの揃へだ「何んで負けよう、負けてなるものか」

眉宇の間には、その眞剣さがあり／＼と窺はれた、職業意識から起る競争心は誰もが胸底に深刻にきざまれてゐたに違ひない。

我孫子の次ぎの柏驛で總武線のガッリンカーに乗換へた。これこそわが一行ばかりで線路工夫らしいのが一人車掌臺に乗つただけ、

「これで完全に茨城健兒で占領だ」と、誰かといふ。この占領の一語こそ征服を意味する合言葉ではあるまいか。

路線は山と山とを切り開いたやうな眞ッ直な一本道、車はガツタン、スットン、ガツタン、スットン。まるでトラツクにでも乗つたやうで、話など更にわからない、流石の成

食事が濟むと統計課長今關傳氏が見えて、極めて齒切れのいゝ句調で、一場の挨拶を述べられた。

「千葉と茨城とは大利根を挟んで相接し、沿海亦相連り、水産に農産に共通の点頗る多く、統計の事業においてもまた然り、希くは今後一層力を合せ心一つにして統計改善のために手を携へて努力したい」

と、切出して千葉縣下の統計事業に關する概要を語り、今春成田公園に統計協會大會を開くや、豫想を遙かに超越して四千餘の大衆を迎へ、しかも農林大臣の臨席をさへ得たのは、獨り主催者千葉のみが誇る現象ではない、事に統計に携はる者皆共通の喜びであると共に統計の眞價が世に認められた立派な證左として長く記録したいと感謝の言葉を頒たれた。

之に對し佐野の根本氏、小野川の成島氏その他から調査員の待遇、指導訓練、大會の効果等について課長に質す處あり交歡容易に盡きなかつたが、千葉市滞在は僅かに一時間二十分で、既に豫定の時間はつきようとしてゐる、統計課を一瞥、課員の精勤ぶりに敬意を表して玄關前の記念撮影もそこ／＼に裏門から本千葉驛に駈けつけ、やつと豫定の列車に間に合せて青堀に向つた。

統計模範村飯野村

千葉縣統計課の野中主事補が同車東道の役をつとめられた。汽車は勝境に沿って海べりを進む、東京灣上一碧鏡の如く、さいなみがひた／＼と線路を洗つてゐる、海士の小舟は長閑かに櫓を漕いでゐる、夢を追うやうに白鷗が水面をかすめて行くかと思れば、忽ちにして翠巒あり、忽ちにして奇嶂あり幾變轉、幾展開、内房の多趣多様な情景、車窓に送迎のいとまもない。

たゞ我等澎湃たる怒濤に見馴れて、海としいへば寄せては返す大波小波の潮吹く壯快さを思ひ泛べるのであるが、如何に東京灣内の一部とはいひ、餘りにも千葉の海は静かに、寧ろその点一種の物足りなさを感じるものであつた。

「景はいゝが、何んだい、これは？これでも海か！」「まるで沼だね、これぢや泳ぐ氣にもなれねえや」

わが茨城は波も荒いが、口も荒い、この凄い口調で、大義名分の發祥地だの、農民何とかなんていふもんだから車中眼を障らざるを得ないのである。

木更津も過ぎ、温泉場で名高い青堀に下車、自動車で君津那飯野村を訪ねた。

飯野村は有名、統計模範村で、村長石井忠五郎氏、助役相澤廣治氏、主任書記牧野秀太郎氏等が全く心を一にして多年統計の完備に努め、村の事一切を圖面に現したり、表示したり、擧げて結論を統計に求めて自治暢達の根源と爲し、たと

足はないといつて、ひたすらに村のため、村民のために働いてゐる。

役場を新築するに當つても役場員が、納税に來たり、届を持つて來たりする村民より高いところに居るのはよくないといつて事務室をコンクリートの土間にし上一體の實を見せたなど到れりつくせり、村民の深厚なる信望を荷ひ、役場のやることには間違ひない、ときめられて村會の如きも極めて圓滿裏に、村長の説明だけで濟まさされてゐるさうだ。かうした村民の和が、この村をして統計模範村となし、優良村とした基ではあるまいか。

房州鴨川の宿の一夜

再び青堀に引返して午後四時二十五分の列車に乗る。傾きかけた西陽を受けて轡は翠に輝き、海は鮮やかに光る、模糊たる彼方遙かに夢の如く浮ぶは、觀音崎燈臺のあたりか、夜だつたら又一しほの眺めであつたらうなど、奇しき景觀を胸にゑがきつ、



鴨川海岸の曳網

へば一疋の仔犬、一羽の鶏を養ふにも統計に基礎をおかなければ駄目だといふやうに、統計に關する堅い信念を村民に植ゑつけ、一方學校と聯絡をとり、役場で作つた統計をば之を學童に提供して、或ひは圖表を作らせ、或ひは綴方に書かせ、圖畫の材料に使はせる、算術の問題に課すとか、悉く郷土教育の資料として利用させ、人間學齡に達すれば直ちに之に統計觀念を培養して、統計の貴さを自然に納得させるといふ趣向だ、知らず／＼の間に注入される生きた學問に、兒童も段々興味を感じて、學校への行き復りには役場へ寄つて「おぢさん、けふは何かありませんか」と進んで材料を求めやうになつたさうである。

序でに學校へ寄つてみると、成るほど學校には兒童の製作になるいろ／＼な圖表が出來てゐて、日々の教材に使はれてゐる、だから上級の兒童になると、自分の村には貯金が幾何ある、借金か幾何、貸金が幾何迄よくわかつてゐる、人口の構成、米麥の收穫迄よくわかつてゐて、斯々の状態だから之は斯うせねばならぬ、あゝせねばなるまいといつたやうな奮發心を涵養させたり、大いに修養になるといつてゐた。

石井村長は書記から始めて役場にあること三十年、「己れを道と思へ」をモットーとし、自分は道路である肥桶を擔いで通られても、馬糞を塗られても唯村の人の便利になり、嬉ばれ／＼それで自分の使命は達せられるのだ、之れに優る満

眼前に展開する絶えざる變化に絶讃を饒けて、館山灣を内房の殿りに汽車は外房へ出た。

常陸の海を見た目にはまた物足りぬがそれでも外房州に出ると海の容姿が一變して白い波頭が見られる、岩に碎けて散る潮の花も見られる。

「やつと海へ出た」游子はそとろに故郷のみが戀しくまた自慢になるものである。

鴨川へ着くと、指定旅館吉田屋の番頭が先立ちで、四五人の綺麗な女中が驛に出入り、手を取らんばかりのサービスだ。鴨川は一漁村に過ぎなかつたが、回遊線の完成により海水浴場として名を賣り、旅館料理店の如きも著るしく發展し、吉田屋は町の一等旅館として海に臨んだ總三階の宏莊な建物で、季節にはまた少し早い、日蓮の遺蹟巡りや、何かの客で殆んど座敷はふさがつてゐた。

食事して街を見る。吉田屋のパンフレットに、「暗闇の沖にまた／＼漁火もまた一

しほの眺め」とあつたが、この地、暗闇の街にまた、紅燈の火影も亦確かに捨て難い情調である。

紅い燈を追うて、次から次ぎへと、揃への浴衣は何ものをか求め漁るのであつた。ほの暗き街燈のもとに喃々の私語も聽かれた、艶のく女達の露骨な誘ひの聲も聽かれた。

「旅の恥はカキ捨てた」

なんて、捨鉢な言葉も聽かれた。

游子の血——否財布を絞る公然の曖昧屋で、本通りにはカフェーの看板をかけ、裏通りは堂々たる料理屋になつてゐる珈琲一杯なんてはいらうものなら怪しき女郎、前後左右を取りまいてグン／＼奥へ引つぱり込む、カフェーへはいつた筈の客は、何時の間にか裏通りの料理屋の二階に閉ぢ籠められてゐるといふ始末、あな恐ろしの仕掛けである。

海邊の夜は明け易く、一行は前夜の疲れもケロリと忘れて五時頃から起き出し、東文間の坂本氏の如きザンブとばかり海へ飛込んで波を切るの元氣さだ。

鯛のぬ鯛の浦

記念撮影して八時鴨川發、小湊に傑僧日蓮の所謂誕生寺を觀た、驛から自動車の方がある。

一行二臺のバスに分乗すると、宿屋の絆纏を着た若い男が

乗込んで何かと世話をやいたりして、愛嬌をふりまいてゐる誕生寺境内へはいると、

「これは誕生水と申しまして世界的大偉人日蓮聖人様が御誕生の折、うぶ湯に用ひられました水であります、今に清水滾々として湧き出でゝをります」

「この御門とあちらの本堂は建治二年に創建されたのであります。末寺百數十ヶ寺を有し關東著名の巨刹であります」かくて朱塗の橋を渡つたり、莊大な幾つかの堂宇をめぐるたりして、菊花の紋章祭たる御門をくゞり、そより立つ巨巖の間を縫うて奥まり行くと、そこに池あり、そこに靈廟あり老杉鬱として天を蔽ひ、法燈かすかにゆらぐ、爽涼の氣ひしと迫つて、茲にしてはしめて法悦の境に至つた心地がする。

若い男はいよく親切に、我等を案内して

「サアこれから妙の浦です、こゝで船の切符をお買ひ下さい、船はスグに出ます、荷物は手前が番をしてをりますから御ゆるりと見ていらつしやい……サア十五人さん、頼むよ」とか何んとか、その要領のよさ、感服の外ない。はしめはうろんな奴と思つたが、かうも手際よくやられると、最後迄この男の厄介になりたい氣持にもなる。説明する迄もなくこの男は、宿屋の客引だ、けれども口先ばかりのお世辭で唯客を引張ればよいといふやうないや味は少しもない、大いに學ぶべきことであると思ふ。

妙の浦は貞應元年二月、今から七百餘年の昔、日蓮誕生の際、この海岸に清泉湧き出で、時ならざるに蓮華が咲き、

そこに無數の鯛が蜻集し、恰も日蓮の生誕を祝福するかの如く不思議を感じさせた、爾來漁民はこの區域において鯛を漁ることを自ら禁じ、鯛の棲息せる場所が明神島の附近であるところから鯛を呼ぶに明神様といひ、現に内務省の史蹟名勝天然記念物として管理されてゐる。その昔、我等の光圀公は諸國を行脚してこの靈地に遊び、

小湊の妙の浦風波もなく

潮満ち渡る法の源

と、詠まれてゐる。

我等を乗せた船は四人の船頭に漕がれて、船歌面白く明神島を指して行く、仰けば誕生寺境内の幽邃、したゝらんばかりに緑の影を藍碧の海に映してゐる、伏してのぞめば瑠璃色の水すが／＼しく、水底にはびこる海藻の一莖だに、はつきりと見わけがつく。

その清冽なる間を漕ぐこと十數分、船を停めて一人の船頭は舷を叩いた、一人は餌を撒きながら水底をキツト見つめた出ない。何もものもない。

撒き餌のまはりには名もない雑魚が御義理に集つてくる位なものだ。

船は更に沖へ進められた。

バツタン、バツタン。船ばたに音がした。

出ない。何も出ない。やつぱり駄目だ。

「何しろ大海で網を張つておくではなし、潮の加減でいろいろになりますよ、船頭の方ちや自由になりません」

「朝のうちなら、とても大きいのがるて、船べりへ飛び込んだりするのですが……けふは修學旅行や何かで見物が多いから明神様腹がぐらいいんでせう」

と、も一人の船頭はいふ。

「鯛の浦は「妙」の浦つて書くんだから字の如く妙なんぞと、と諦めをいふものもある。遂にこの日、この時、妙の浦には鯛がゐるなかつた。そのかはり遙か彼方の沖合に海豚の一群ヒレを立て、近海を壓する豪壯な光景に接するを得た、船頭は「ありや鐵砲でなきや駄目でさあ」と見向きもしない。

妙の浦の右手の海岸に水産試験場經營の水族館がある、陸路海べりを一まはりするもよく、誕生寺門前からモーター船の便もある、誕生寺一圓の景勝を一時に蒐めうる絶景の地で近代式建物に相當多種類な魚族を生けておく。修學旅行の學生や誕生寺詣での善男善女が踵を接して何時も一杯の觀覽者だ。

妙の浦といひ、この水族館といひ、寔に思ひつきの施設で之によつて遊覽客を喜ばせた上に相當な金儲けにもなる、千

葉の海岸にはこの種の施設が各所にある、千葉ばかりでない
 到る處でそれ／＼考へられてゐるやうだが、本縣などでも唯
 天然の風光佳景をのみ賣物にしないで
 更に人工を加へて旅人を厭かせない程
 のものでも考へてみてはどうか。

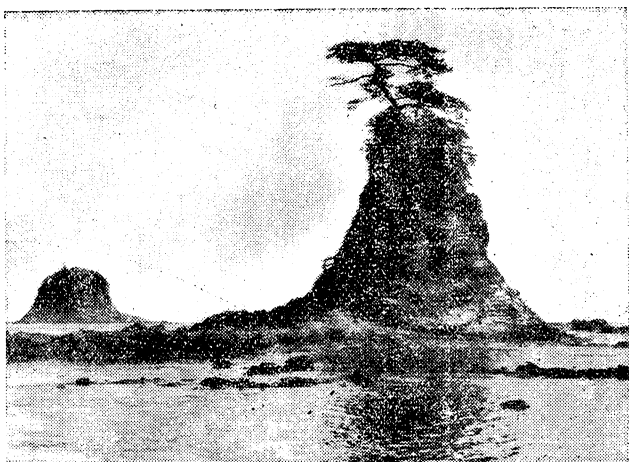
御宿の調査員優遇法

十時二十分小湊發、お仙ころがし、
 勝浦等の名勝を車窓に眺めて御宿町に
 着き、直ちに町役場を訪ねた。

驛前には古代文化の遺物とも稱して
 よからうトテ馬車が自動車の間に伍し
 て客を待つてゐるほどに、凡てがクラ
 シカルな光景であるが、役場はなか
 ー立派だ。

我等は三階の會議室に案内されたが
 二百人位は、はいれさうな大廣間で、
 別に二十疊敷きの日本間がある。町長

神定新吉氏も飯野村長に劣らぬ統計熱心家で、明治三十四年
 役場書記を拜命して以來、収入役、助役を経て町長の今日迄
 精勤實に三十五年、書記時代から統計事務を掌り、常に統計



調査員を督勵して整備改善を圖り、如何に主任が働いても、
 やきもき骨を折つても主任だけでは何もならない、主任共々

調査員を働かせなければ成績は上るも
 のでない、何とかして調査員の素質を
 改善せねばならぬ、一面その勞に報ゆ
 る處がなければならぬと考へ、主任者
 とも計つて大正十一年町長に就職する
 や機會ある毎に研究を重ね手當等物質
 的の報酬は他の振合ひに倣ひ精神的優
 遇の方法として調査員をば他の町會議
 員、區長等の名譽職と同等の取扱ひを
 なし、四大節の祝賀は勿論その他町の
 浦あらゆる喜び事から、道路橋梁の開通
 式のごとき際でも悉く名譽職同様に招
 待狀を發して優遇し、そのみか何處
 の町村でも同じ、ヤレ道普請の用水浚
 渫のと毎戸一人宛出張つて奉仕的勞役
 に服する定めがあつて、町長はしめ町
 中誰もか負擔するこの夫役も、調査員

だけは日頃の過重なる勞苦に免じて是等一般夫役を免除し、
 以て調査員の貴重なる使命を町民に認識させ、同時に統計の
 重要なるゆゑんを理解さすべく努力した、五年ばかり前から

に困る」

「形は整つてゐるが内容ではヒケはとらぬ」

敵愾心に似たやうなさゝやきも、どこかで聽かれたが、思
 ふに内容がいゝからこそ形にも現はれて來るのではあるまい
 か、ツギハギでは統計は出來ぬ筈だ、しかも町長及び主任者
 の説明を聽くに及んで、その努力、その熱意を窺ふに及んで
 唯々敬服の外なかつた。

いよくおのぼりさん

御宿から兩國迄、一踏汽車の旅。

「いよくお上りさんだ」

「存分に赤毛布を發揮するさ、ペエ／＼で押し廻すと大抵
 の江戸ッ兒はオツたまけるよ」

ちよつと之れで重要な視察は濟んだわけだし、ヤレ／＼と
 いふところの悠々たる道中だ。勇氣百倍、早くもネオンの影
 に思ひをやるものもある、妙に信心氣を出して龜戸の天神様
 に詣りたいの、淺草の觀音様のお札を受けたのと他愛もな
 く賑はつてゐるが、朝早くからお茶のますに歩き通して將
 に午下二点といふのに我等まだ晝食にあつからない、この回
 遊線にはナゼか驛賣りが極めて少ない、鴨川から千葉へ出る
 のに大網遊行かなきや辨當にありつけぬわけだ、之れには強

は採用方針も改めて出來るだけ若い潑刺たる青年を探り、現
 に農學校出の未成年者を一人採用してゐるが、かうした青年
 達もお祝ひ事でもあると町會議員など、同様式典に列つて町
 の中堅をなしてゐる、この優遇ぶりをみて初めの頃には、何
 か自分の權限でも冒されるかの如く考へる向きもあつて兎や
 角批難するものもあつたが、今日では左様な不満不服は更
 ない、そして一方斯うして優遇されると第一調査員の氣持ち
 が違つてくるから、仕事は捗が行く、成績は益々あがる、主
 任者から何の指圖をしなくとも、ひとりでの町の統計が作ら
 れて行くといふ一舉兩得の良案で、それで金がかゝらぬのだ
 から何れの点からみても満点だ、今春晴れの大會に前記飯野
 村長と共に名譽ある功勞章を授けられたのも、この優遇方法
 の卓越せるによるといはれる。

たゞに之ればかりでない、卓上に運び出された統計の書類
 は、各種別毎に立派に裝幀されて一冊の書籍をなしてゐる、
 尤もこゝの統計主任瀧口武男氏が誠に器用な人で、一々御自
 分で製本されるそうだが、要は調査員諸君が努力の結晶とも
 いふべき貴い記録だから、斯うして何時迄も保存し、移り行
 く町の勢ひを考察する唯一の材料に資したいといふのだ。か
 うも大切にされると勢ひ、いゝ加減なものなど作れぬこと
 なる。

「こんなことをしてゐたら村の役場などでは第一置き場所

情我慢の一行も聊か閉口した。

空き腹をかゝへて鹿島の代表諏訪の酒井助役や結城の海老原氏、麻生の正木氏、高田の伊藤氏、下大野の平戸氏など熱心に報告書の案を練つてゐる。

蘇我から又元の道にかへつて千葉を越え船橋へ着くと、龜戸、錦糸町方面にお降りの方は省線電車にお乗換といはれるいよ／＼お江戸が近づき申したのが無性に懐しい。

東京へは割合に早く着いた。眞ッ直に九段の軍人會館にをさまつて旅装を解き、一休みしてからおのがじし、心ゆくまゝに耀きらよう帝京の夜を味はつた、それでも十時の門限迄には全部歸つて来た、日頃統計で鍛えた人達に間違ひはないものだ。

女護ヶ島―統計局

早忙の間に二日の行程をおへて第三日目、お別れの日が来た。

午前八時會館を出て 靖國神社に參拜、麻布の内閣統計局を視察した。

廊下に突ツ立つて、局員から統計局に就てのアウトラインを拜聴して第一に導かれたのが國勢調査に關する書類を収めた倉庫だ、8の符號を附けて茨城縣はスグ入口の處に控へて

る、稻敷郡安中村だの高田村だの最初に目につくので高田の伊藤助役氏、一段と好奇の目をみはる、茲で先づ十數分實物について種々なる質問が出た。

お次ぎは一般事務の見學だ。何と若き女性のみの領域ではあるまいか、局員の話によると全局員六百五十名の内五百名は女ださうで、ソロバンをはぢいたり、計數器をあやつたり、ペンを走らしたり、多くは手先きの仕事だから女に限るのであらう。

成島氏「女ばかりで感じがいいですなあ」

局員「ハア和やかです」

女護ヶ島ともいふべき、この和やかなる雰圍氣の間に交つて、その課長さんから穿孔機、分類機、印刷製表機等精巧な機械の實演を見せられた。

昭和五年の中間國勢調査に我等が申告した調査書は、かくして美しい女性達の手に扱はれて、一枚つゝのカードに作られるのだが、それ等の各機關を通過するに實に五ヶ年を費して此の程漸く完成したさうである。

一世帯一枚つゝのこのカードを積る重ねると全國民六千四百四十四萬餘人分で驚くなけれ富士山の五倍となる、縦に一枚つゝ並べると東京から名古屋迄續くさうだ、紙一枚とはいへぬものである。

農林省で座談會

それから勞働調査課、家計調査課など二時間にわたつて詳細に見學し、大いに啓發される處あつて更に農林省を訪ねた統計課堀田統計官補の案内で省内大臣室迄一巡した。さすがお百姓の大本だけに質素なところが一行大いに氣に入つて、

「オラが大臣はこれできまや駄目だ……」

と衷心から禮讚の言葉が放たれる。課長室には我等のために特に席を設けられ、本多課長を中心に長畑統計官、高橋、堀田兩統計官補も加はつて、方形陣を作り、赤坂の御馳走を頬張りながら期せずして座談會が開かれた。

課長「諸君は千葉縣下の優良町村を視察されたさうですが平素統計事務に苦心されてる方々でありますから先の良い處、參考になる處もスグわかるし、又先方でもいろ／＼こちらから指摘されたり質問されたりすると更に改善するといつたやうな点も見出されることもあらうし、かた／＼非常に有益な事と思ひます、茨城縣ではかうした視察は度々やつてゐますか、」

成瀬屬「縣下の優良町村視察といふやうなことは統計協會創立以前からやつてゐますが縣外の視察は之が初めて、

今後は毎年計畫されることになると思ひます」

課長「それは結構です、諸君はこの見聞を活用して一層統計のために努力されたい。サテ近頃統計利用の機運が發達したとも申しませうか、一般に統計が重要視されるに至つたやうですが、何かさうした實例がありますか」

〇〇「利用大いに結構ですが政治的に使はれるのは困ります」

課員「さう／＼茨城には何かさうしたことがありましたね縣會の問題になつたとか……」

××「要するにあつた問題も自分の縣を救濟縣に入れたといふ縣民を思ふ熱意から出たものでせうが、多少し考へてくれるといふと思ひます」

課長「稅務署あたりで利用したいやうな傾向はありませんか」

成島「私の方では旱害地の免租について稅務署から調査を頼まれたことがあります」

□□「私の方などには絶対にありません、たとへあつたにしても斷つてしまひます、さうでなくても我々の仕事は税金に關係があるかの如く誤解されるのですから稅務署のお先棒はつとのられませぬ」

課長「何時でしか裁判所から訴訟上の證據に統計を見せて貰ひたいといつて来たことがあるが、法規上統計は他人に

お見せ出来んというて断りました」
 その他事務上の質問やら意見やら、さては千葉縣下の視察
 町村に關する感想などを述べ合つて農林省を辭し、こゝに豫
 定の行程を済して解散した。

この稿を終るにあたり、千葉縣當局、視察町村、内閣統計

局、農林省の皆様に深甚なる謝意を表し、併せてこの三日間
 無粋な筆者をして、ほんたうに愉快に、ほんたうに氣持ちよ
 く旅させてくれた各郡代表の諸君に衷心お禮を申上げ、再び
 相見るとの日を楽しみに待つこととする。

罹電被害

昭和九年に於ける本縣は降雹、旱害 颱風、冷害と云ふ續けざまの災害で隨 分惱み抜いたが、本年もまた既に五 回に亘つて降雹に見舞はれ、所によつ ては連續數回の被害に打ちひしがれた 惨めな町村さへある、統計課で調査し た被害状況は次のやうなもので、本縣 をはじめ關係罹災府縣でこれが對策を 協議中で天谷縣會議長から臨時縣會招 集の要求すらあつたやうである。		久慈郡二ヶ村 多賀郡一ヶ村 損害見積額	
△第一回 (四月二十一日)	那珂郡神崎村外三ヶ村	田 一五、一反	一、一一二圓
反 別	損害額	畑 六二、八反	三、二九二圓
四四三、七反	二五、二二六圓	計 七七、九反	四、四〇四圓
△第二回 (五月九日)		△第三回 (五月二十一日)	
		東茨城郡 四ヶ村	東茨城郡二ヶ村、筑波郡一ヶ村
		西茨城郡 五ヶ町村	那珂郡一ヶ村、眞壁郡四ヶ町村
		新治郡 十三ヶ町村	稻敷郡八ヶ村、結城郡六ヶ村
		損害見積額	新治郡十ヶ町村、行方郡五ヶ町村
		田 二四、一反	此損害見積額
		畑 三四、五反	一四、三〇圓
		計 五五、六反	二九、五二圓
		△第四回 (五月三十日)	
		田 一四、五反	一四、三〇圓
		畑 三三、三反	二九、五二圓
		計 二七、八反	三三、八二圓
		△第五回 (六月十一日)	
		田 六七、五反	三、八四圓
		畑 一、三七、七反	六五、〇〇圓
		計 一、三五、二反	六八、八六圓

續く惨害のドン底から

奮ひ起つた柴崎村

今に残る天明大饑饉の記録



六月三日、長驅して稻敷郡柴崎村を訪ねた。龍ヶ崎から江
 戸崎行の自動車で四五十分、狸穴の一本松——トゲくしい
 男松の縁を古池にひたして、狸ならぬ大蛇でも出さうな三叉
 路で下車、オライ嬢が親切に教へてくれた通り挽材工場の
 前を右にはいつて約二十町、匡救道路であらう坦々たる山裾
 の改正道路を幾曲りかすると柴崎だ。この地、その昔甲斐
 守近衛光壽の居城であつたが、天正十一年土岐治頼の攻むる
 ところとなり甲斐利あらず、自刃して果つ、臣僚また離散し
 て城中たゞ一つの祠を残すのみであつたが、後敗北の臣、再
 び主城を慕うて來り住んだ、現在の宿場みたいなところがそ
 れで、城中に残つた祠が今に傳はる愛宕神社である、常總の
 野を一陣の間に收むる丘の上に鎮座し、四季の眺め頗るよい

かうした由緒の地だけに、住む人々の心もゆかしく、街道
 塵一つ止めぬまでに掃き清められてあつた。
 學校の前を曲るとスグ、駐在所と役場が並んでゐる、役場
 は古いが、駐在所は新築早々のものらしく。勿体ないほど立
 派だ。
 刺を通じて統計主任油原眞氏を名指すと、そこにゐたガツ
 チリした方が「油原です、どうぞこちらへ」といふ、導かれて
 事務室裏の休養所といつたやうな日本間へ通る、村長小倉市
 助氏も早速來られて三人鼎座、時節柄先づ養蠶の状況から話
 題は設けられた。
 「水戸の方は桑の葉は幾何位してゐますか」
 しまつたツ！繭の値のいゝことはその日沼津のニュースで

知つてゐるが、筆者不幸寡聞にして水戸邊の桑相場は聞いてゐなかつたのだ、尤も當時尙ほ水戸邊では桑を賣買する迄に養蠶が進んでもゐなかつたのだ、僅かに水海道あたりで桑葉不足を見越してプローカが買占めをやつてるといふのを耳にしてゐたので、仕方ない、そんなところで間に合せて、さうして今度はこちらから逆襲した。

「この邊では養蠶は如何です、」

油原主任「養蠶は相當にやつてゐます、昨年の春蠶は一萬七千六百十五瓦の掃立で六萬九千七百七十六圓、夏秋蠶は一萬八千三百三十三瓦で三萬千二百八十二圓、全部で十萬圓を越えてゐます、昨年の蘭安で今年は幾分掃立も減じたやうですが、今の處では値はよささうだし、セメテ四圓位になれば大助かりで、村全体に景氣がつかます」

「田植も始めてゐるやうですが、養蠶やら田植やらゴツチャで随分農家は忙しいでせう」

主任「忙しいのは是れからです、この季節になると人間が拂底して引張り風です、それで農雇の賃金標準をきめてけふ



(眞寫) 前右から二人日統計主任油原氏、次は役平井重、村會議員、村役場員、其他氏助市倉小長村は次、氏門衛右

が、聞いたと見たでは非常な違ひで、前に述べた如く小高い丘の上にあつて明るく、人は淳朴そのものである、東西卅一

内に包む豊富な内容

これから村會にも諮つたり一般にも通知することになつてゐますが、これでは少し安いかと思はれます」
その定められた標準なるものを参考に左に掲げてみよう、
△田植男一圓、女九十錢△桑苗取一把四厘△養蠶勸(春蠶)男一圓、女九十錢(秋蠶)男八十錢、女七十錢△桑摘十文字一貫目六錢、改良種四錢△繭搔白繭一貫目七錢、黃繭同六錢△除草一日六十錢△稻刈男八十錢、女七十錢△調製男九十錢、女八十錢△畑耕男八十錢、女七十錢

町、南北二十三町、戸數七百、人口も千七百九十五人、男より女の方が二百人ばかり多い、川沿ひだけに水田最も多く全土地の約七割を占め畑は養蠶郷を如實に物語つて二百五十六町の内百五十町は桑畑である。

村長には往年縣會で鳴らした宮本熊藏氏があり、平井文衛門氏があつた、平井氏は今は故人となつたが共々村治に絶大な功勞あり、學校の庭には大きな頌德碑が建つてゐる、小倉現村長も助役平井重右衛門氏も共に濃厚篤實で、信望厚く、統計には極めて理解があり、主任油原氏の熱心とよく調和し村會議員亦よく統計の貴重なるを辨へて、統計費の如きも四百十八圓から計上し、調査員の手當は一人二十圓で米調査の方で五圓つゝ支給してゐる。

油原主任は、昭和七年四月二十九日天長節の佳辰にあたり統計功勞者として縣の表彰にあつた人。大正十三年七月から統計事務を掌り、滿十二ヶ年、身を以てその整備にあたり、調査員を督勵訓練し、時には全員を率ゐて優良町村の視察をなし、本年も久慈郡賀美村を見て更に埼玉縣精明村を視たさうだが、賀美においては多々得る處あつたが、埼玉の方は案外幼稚で却つてお手並を見せてやりたい位だつたと調査員諸君鼻高々である。

左に調査員諸君の氏名を紹介するが、何れも村の中堅人物で多くは區長を兼ねてゐる。

△大字柴崎松浦永藏(五)、柳町靜一(五)、内藤勇次(三)松浦康(四)、逸村考之助(五)△大字伊崎 日尾野藤吉(五)△大字角崎大竹文治(五)△大字中山 大貫熊次郎(三)、助川宇三郎(五)△大字伊佐津 池田忠藏(四)、宮本文助(五) 尚ほ油原主任は統計思想普及の一策とし、又調査員諸君の努力を周知せしむる一方法ともして「今年米がどれだけとれたか」とか「麥の状況」とか「春蠶の結果」とかを「柴崎村統計速報」とし謄寫版刷りにして村民にその都度速報してゐる、寔に思ひつきの方法といふべく左に九年度米作に關する速報を轉載してみよう。

柴崎村統計速報 (稻數郡柴崎村)

○今年米がどれだけ穫れたか！
昭和九年に於ける米の作付反別は六百三十八町五反歩にして其の收穫高は一萬一千七百七十三石なり之を前年に比すれば五百四十三石の減收を見たり水稻稈に於ける反當り收量は一石七斗六升にして水稻糯に於ける反當り收量は一石六斗二升三合なり
前記收穫高を價額に換算すれば三十一萬三千二百三十九圓(稈は石二十八圓、糯は石二十八圓五十錢の割)の巨額に達し米作農家(五三八戸)一戸平均額五百八十二圓二十三錢也今右收穫高を調査區別に掲ぐれば左の如し(表略す)

丹念な大工さんの日記

この地、往昔、利根川に堤防らしい堤防もなく、一たび氾濫するや濁流思ふがまゝに荒れて、田も畑も家もなんにも持ち去られる、多年この荒類に懲りて岡へ、岡へと出て来て今日の柴崎村を成したものと口碑に傳はるが、天明年間淺間山の大爆發には甚大なる損害を被り、五穀殆んど實らず、草根木皮も喰ひつくして垣根を結んだ繩のイボを黄粉の代用にし、松の皮を餅に搗き交せて命を撃いたといふ慘状を呈した。こゝに丹念な大工さんがあつて饑饉の有様を日記に認めておいた、某所にその一部分が残つてゐる。

或る大工の日記

天明三年七月六日朝、この時砂降る、六日、七日は晝夜、空赤くして砂降ること一時も止まず、八日は夜も晝も知れずして燈は消す間もなく皆々こねて居り申候(ごねるは衆人の臥する俚言)

天明三年秋冬の相場

玄米百に一升、稗はカラ稗二升五合、大豆一升五合、大麥一升二合、小豆九合、綿十八匁
ひきへ田(低田)は大水にて無し、畑は砂にて大豆小豆稗なし、それより高い處の田は大風度々吹き、皆そつ立にて

實なし(そつ立は空立)

十一月二十七日の晩よりほうき星出る、十二月七日大地震この年の流行歌ノンノ節(その一部)

一つとや ひとり事ではないけれど、田畑見れば皆涙 ノンノ

七つとや なんてくらさう來春は六合相場が氣にかゝる ノンノ

八つとや 病で死ぬは是非がない、食はずに死ぬるは無念 ノンノ

やな

天明四年春玄米百に八合、白米六合、大豆一升、稗二升、米ぬか六升、麥七合、稗のあらぬか八升、菜は正月の頃より畑にて賣致候

草根木實皆食ひつくして、垣根のいほを、こうせんとし松の皮を餅に搗き交せて食ひたり、又米ぬかを食ひたり

天明四年漸く豊年、玄米百に二升二合、大麥二升五合

白日愛兒の顔を見ぬ

り働いた。天は昭々として正しきものを照す、努力は遂に報わられて、風水害も除かれ、交通も發達し、今日の立派な模範村は築きあげられたのである。

辭して村はつれに出ると、盛んに田を植ゑられてゐる、十三四の女子が二三人、自轉車へお辨當を積んで、野の父へ、母へ、姉兄へ、急ぐのを見た。

市町村

(表名)	八 月	(報告期限)
綿織物産額調(特定町村)	三日	三日
絹織物及絹綿交織物産額調(同)	五日	五日
人口動態調査票	十五日	十五日
園藝農産物果實ノ二	十八日	十八日
水稻作況	末	末
製 藍	末	末
學事年報乙款及諸表	九 月	九 月
綿織物産額調(特定町村)	三日	三日
絹織物及絹綿交織物産額調(同)	五日	五日
人口動態調査票	十五日	十五日
夏秋蠶豫想掃立數量	十五日	十五日
園藝農産物蔬菜花卉ノ一	十五日	十五日
米第一回豫想收穫高	廿三日	廿三日

統計調査員

(表名)	八 月	(報告期限)
園藝農産物果實ノ三	末	末
製 茶	末	末
夏秋蠶豫想收穫高	末	末
果實中	末	末
ネーブルオレンジ、ナツミカン其ノ他ノ柑橘類	三日	三日
同 ウメ、モモ、オウトウ、ビワ	十日	十日
夏秋蠶豫想掃立數量	十日	十日
夏季調査作物	十日	十日
水稻、陸稻の反別	十五日	十五日
夏秋蠶豫想收穫高	十五日	十五日



納税完納三十年

懐る豊かな佐野村

名物は麦と西瓜とサツマイモ

統計模範村

麦の村、西瓜の村、甘藷の村、政争のない村、三十年來、納税完納の村——さうして佐野は統計模範の村として有名だ水戸から僅に十數分、二ツ目の佐和停車場のある處がその模範村だのに、餘り近いのでツイうっかりしてゐるが、今度何年ぶりかでこの地を訪ねて先づビックリした。車窓から見た寒素な驛前の光景とはまるで異つた華やかな一廓をそこに見出したからである。

賣出しの旗、念入りに店飾りした理髮屋さん、そしてその間に点綴される何軒かのカフェー、近代の様式を施した青い幕の影に噪やく斷髪の女、洋装の女——何時の頃から佐野はこのやうな時代の浪に乗つたのだらう。

◆……ロジツクに合はぬ村

農村といへば「荒み行く」と來なければロジツクが合はない

程、到る處荒み切つてる筈の農村なのに、獨り佐野のみは時代の勢ひに乗つてこの歩みだ。不可解な謎を秘めて役場を訪ると村長さんも統計主任も、小麦の作柄等位決定に畑へ出てゐるといふ。もつげの倅ひだ、教へられたまゝに麥隴の間に出ると、黄ばんだ麥畑の中にカン／＼帽をいたゝいて村長さんと主任さんが、とみかうみ盛んにやつてゐるではないか、挨拶もそこ／＼、この精勤ぶりをカメラに収め、道すがら實物教授を受けながら役場に引あけて、先づ謎を解きにかゝつた。

記者「近頃佐野の發展は素晴らしいものですな」

村長「ハア、なか／＼やつてますよ」

記者「失禮だが、こんな處にカフェーなどあらうとは思ひませんでしたね」

主任「あんなものぢやありませんよ、あれから先き、線路

の向うへ行かうものなら大したものですよ」

記者「どうしてこんなに發展したんですかね、村民の懐ろが豊かなんでせうか」

主任「それもありませんが、大きい商人が出來たりしましたからね」

記者「大きい商人？かういふ處に一郷の盛衰を左右するやうな商人なんて何を商つてゐるんです」

村長「砂押忠八といふ肥料商です、三十年ばかり前は全く無資産でしたが、日露戦争時代にさゝやかな肥料商を営んだのが當つて今日では一ケ年の賣上三百萬圓と稱し、恐らく縣下でも指折りの肥料商でせう、營業收益税は太田稅務署管内で第一の納税者ですこの人は何をやつても失敗がないといふのだから運ですな」



前右列入り役植田景三氏、中中央村長（眞寫）清水廣介氏、左端統計主任根本富男氏、其他役場員

主任「肥料の動きは村の動きで砂押氏は朝、戸をあけると村への附合ひやら税金やらを一日十五圓宛ときめてお下さうです、さういふ大商人ですから毎日多數の人が出入する。その人達が飯を食ふ、物を買ふ、村では税金がウムとはいる、寄附事は大部分一人で引受けてくれるそんな關係で、肥料が動くと之につれて村が賑つていくのです」

これで佐野村發展の理由がわかつた、謎は解けた。

◆……副業をやらぬ村

しかして村民は淳朴敦厚、營々として古來傳統の家業に勵み副業といふものを殆んどやらない、之も懐ろ豊かな證據で、納税成績は東京稅務監督局管内で第一位を占め、納税完納三十年

全國にも稀なる村として推稱されてゐる。
東西一里十四町、南北一里十九町、戸數八百七十一、現住人口四千五百二十九人である、その内自作農が二百四十五戸、自

作兼小作が三百三十七戸、純然たる小作農者は百七十一戸しかない。主なる産物は小麦で作付反別四百二十七町、次は陸稻(糯)で二百四十九町四反、水粳は二十町五反、大麦百一町三反、その他陸稻粳、裸麥等で米麥以外では甘藷、大豆、西瓜、菜種などが重なる産物になつてゐる、わけても小麦は縣内は勿論、全國でも屈指な生産地で、全國八百萬石の千分の一、即ち九年度には八千石を收穫した。見渡す限り一面の麥畑、その合作が西瓜と甘藷、役場なども三方麥に圍まれてゐる、實に麥の村であり、西瓜の村であり、サツマイモの村である、米葉の適地として近頃は葉煙草も盛んになりつゝある。そして西瓜は多く福島縣下に輸出され、サツマイモは東北に、小麦は全購聯、砂押肥料店及び製粉會社と取引されてゐる。

◆……調査員と學校の連絡

現村長清水廣之介氏は大正九年以來役場に勤務し、收入役、助役を経て村長になられた地方自治の通人で、村民の信頼厚く統計主任根本富男氏亦既に八年も勤続し、村長を補佐して、ひたすら村勢の發展に努め、統計事務に當つては、その明快俊敏なる全腦を打ち込んで完璧を期し、聊かも倦むところなく、常に第一線に立つて調査員を督勵し、調査方法の如きも共に研究して最善の方策をのみ出すことにつとめる調査員もよくその氣持ちを呑み込んで之れはかうしたらどう

か、之れはかうするがよからうなど研究的態度で調査にかゝるから、自然趣味が湧いてくる、調査は徹底される。斯くて村當局と主任者と調査員とがガツチリ組み合つて一つ心で統計をもち立て、行くから益々よくなるばかりだ。
一面また學校と聯絡をとり、養鶏調査の如きは悉く兒童にまかせ、兒童が調べて來たのを受持の先生に計算して貰う、お手傳の兒童にはその都度一人十錢程度の雜記帳と鉛筆を贈る、これを調査法改正後連續行つて優秀なる事蹟をあげ、昭和七年四月二十九日天長の佳節に縣表彰の榮譽を荷はれた、然らば調査員の方はどうか。

佐野村の現調査員は

- | | | | |
|----|------|----|------|
| 高橋 | 淨君 | 平野 | 廣之介君 |
| 大塚 | 英君 | 武弓 | 大介君 |
| 飛田 | 丑五郎君 | 照沼 | 初太郎君 |
| 武弓 | 定之介君 | 田中 | 廣之介君 |
| 稲田 | 龜吉君 | 清水 | 鐵藏君 |
| 内山 | 寅松君 | 鈴木 | 春之介君 |
| 川崎 | 修君 | 川崎 | 信君 |
| 清水 | 啓君 | 清水 | 吉太郎君 |

の十六名で、平野、武弓(定)、田中、内山、川崎(信)の五氏をのぞく他の十一名は何れも大正十年以來の勤続著だ。成るべく馴れた人を替へないのがこの村の方針で若し己むを得

ざる事情で、どうしても辭めたいといふやうな場合には、一ヶ年位前に後任者を自ら物色して之にみつちり指導訓練を興へてから辭めさせることにしてある、急に辭意を申出るが如きことがあつても受理しない、そのかはり常に報ゆるに相當の手當を以てし、現に統計調査費として四百八十圓の豫算をおき、調査員手當一年僅かに五圓であつたのを昭和四年から一躍二十圓に引きあげ、更に精神的優遇の方法についても考へてゐる。

◆……一般事務にも優秀

聞くところによれば昭和三年統計調査法改正の當時においては、根本主任等も反對側一方の旗頭で騒いたものだが、何

としてもやらねばならぬ事になると猛然奮ひ起つて村當局を説き、先づ三百圓の豫算を貰つて圖面も作る、臺帳も作る、そして之を調査員にやらせようとすると今度は「こんな七面倒な仕事が出来ぬものか」とヒヂ鐵砲を喰はされる有様それをやう／＼に説得してやらせる、やつてみるとほんとの數字が現はれてくるから段々趣味も加る、こゝぞと前記の如く倦まずたゆまず訓練し督勵して遂に今日の優秀なる成績を収め、範を縣下に垂れるにいたつたもので、本年更に經濟更生指定村に加へられ當に統計ばかりでない、一般事務の優良を誇るの段階を昇りつゝあるのだ。記者は洋々たる佐野の前途を祝福して一段の努力を希ひ此の稿を終ることとする。

メートル換算法

尺貫をメートル法に換算する便法を記してみる、
勿論便法ですから少しつゝの誤差はありますから
そのおつもりで
鯨尺を米にするには 五割加へて四で割る
米を鯨尺に 八倍して三で割る
里をキロ米に 三割加へて三倍する
キロ米を里に 二割加へて四で割る

キロ米を哩に 五倍して八で割る
平方米を坪に 一割引いて三で割る
キロを貫に 二割引いて三で割る
貫をキロに 四で割つて十五倍する
斤をキロに 五で割つて三倍する
升をリットルに 九倍して五で割る



實務道場

統計調査の葉 [4]

☆……統計が進歩し統計が利用されることに

☆……よつてはじめて完全なる國策は生れる

いよく收穫の秋だ……

修練の腕を見せるは此時！

あつしともいはれざりけりにかへる
水田に立てるしづを思へば
畏くも明治大帝には、極暑、煮えかへるばかりの水田に立ち、田の草をとる農夫の夏を、思召されて民草の戒めとされた。

その夏こそ、躍進日本の象徴とも稱すべき農民唯一の壇上ではないか、次に來るものはこの貴い汗の結晶から成るといふ收穫の秋だ、萬頃一颯、農民のみが占有する爽涼の秋だ。そして調査員諸君が、日頃修練の腕前を天下に誇る絶好無

二の秋である。
曾て縣會に問題視されたのも、この秋の調査であつた、秋の調べの如何に重要であるかは、この一事に徴しても明かである。

諸君は、諸君の任務の重大緊切なるに鑑み、一層調査の正確を期し、統計の完璧を天下に示されるやう努められたい。

秋季調査と調査員の注意

一、耕地圖及作付反別調査原簿の加除整理

耕地圖及作付反別調査原簿は、常に耕地の現状と對照し、合致せしめて置くことは、何時の季節にも必要のことである。既に調査員諸君は御承知のことである。併し作付反別調査の總てがこれを基礎とするものであるから、駄足ながら特に注意する次第であります。

二、秋季作付反別調査

秋季作付反別調査は調査員として四季を通じての最も困難な季節で、即ち米生産統計調査方法實施の結果之に依る調査方法と、縣に於て制定の調査方法の併用に依り、米と他の作物との二つに調査せられ、手續上に於ても複雑となりましたから左の順序に依り處理することが便宜であります。

一般農作物及陸稻にあつては作付反別調査票(畑)秋季の欄に記載して所定の通りに調査し、之が作付反別を集計して集計表を作成するのであります。

陸稻は右に依り調査のみして集計せず。後の米生産統計調査方法に依り處理するもので、陸稻の場合には作人を記載して置く必要があります。

三、米生産統計調査

(1) 作付反別調査

米生産統計調査員は、米の調査に先だち別項記載の米作農家の調査を行ひ米作農家一覽を作成せねばなりません。米作農家一覽とは自調査区内に住居を有し、自調査区内に米作地を有するものを第一に記載し、次に自調査区内に住居を有し、他調査区に米作地を有するものを記入し、更に他調査区に住居を有し、自調査区内に米作地を有するものを記入するのであります。併し實際の米作農家は右の一覽より他調査区内に住居を有するものを差引き、自調査区内に住居を有し、他町村のみ米作地を有するものを加へたものであります。すから、之が報告の際には特に注意を要するのであります。

一年毎の作付反別調査は陸稻にありましては前述の通りであります。此の場合には耕地圖と對照するか又は耕地圖に所定の貼紙を用ゐて一筆毎に必要事項を記入するか、特に米作地圖に依りて調査をなすか、孰れか適當の一つを選びて調査をなせば農林省の趣旨にも縣の規定にも反しない事になります。

水稻の調査に在りても前同様の方法に依り調査するのであります。水稻は田の殆んど全部に作付するので耕地圖と作付反別調査原簿と對照して合致せしめ作付反別調査原簿の欄外(上部)に貼紙をなし、其の上欄に梗米糯米別に上、中、下の作柄を記載して行くと反別、作人は原簿に記載してあるからこれで一筆毎の調査を完成したことになります。

これが終ると水陸稻共是れを作人別に作成の補助表に記載して各梗米、糯米を上、中、下の作柄毎に記入し、是

を集計して米生産統計調査基準票に
記すのです、但し補助表、基準票と
も他町村より来て作付して居るものは
作人毎とせず入作として一つに纏めて
宜しいのです、

(2) 一段歩收穫高の決定

愈々結實して刈取期に入らば、坪刈
標準地を選んで坪刈を行ふのですが、
坪刈は上中下の三段に別けて之を行ふ
必要があります、その上中下三段の標
準を決定する場合には、その三段階級
の中庸を選ぶべきであります、單に
中庸のみでは實際より多い收穫となる
虞がありますからいや實際より多いと
云ふ結果を生ずるから、中庸の稍々下
位を選ぶのが最も必要です、執れにし
ても慎重の取扱をして決定してもらひ
たい、そして右の結果と其の年の實際
の状況とを參照して一段歩收穫高を決
定するのであります。

(3) 基準票算出收穫高の記入

家の意見等を參照して特に慎重に決定
して記入するやうにしたい
斯くして調査を完了し右の調査票の
作付反別及審査收穫高を合計して調査
區結果表を作成し更に市町村報告書
を作成するのですが、檢算を厳にし誤算な
きを期してもらひたい

以上は大体的處理順序でありまして
尙詳細は米生産統計調査方法に依り處
理することは勿論であります

四、本期に於ける作物の

種類及調査期間、報

告期限

本期の作物種類及調査期間、報告期
限は左の通りです

ア	自九月	報告期限	十一月十日
ヒ	エ	至十月	
キ	モ	ロ	コ
シ	ソ	ジャ	ガイ
バ	モ	根	秋播
ナ	大	カツ	ケ
ラ	ニ	ン	ジン
	自九月		十一月十日
	至十月		

右の一段歩收穫高が決定すれば各基
準票の作付反別に是を乗し基準票算出
收穫高を記入するのです

(4) 基準票の送付並受領

此の場合基準票は他調査區より自調
査區へ来て作付して居る者の分は自調
査區で所持して居るから右の算出記入
を爲した後其の農家の住所地たる調査
員に基準票を送付するのですが、その
反對に自調査區に住する農家が他の調
査區で米作を爲す場合その基準票を受
領せねばなりません

此の送付並受領は各自が直接之を爲
すときは非常に煩はしいから、市町村
役場で日を指定しその日に持寄りお互
に渡しあふことにしたいのです

尙此の場合各調査員は本誌第二號
(三月號)四五頁に掲載の米生産統計調
査作付反別出入明細表を作成して段別
の一致を圖り不都合無き様處理して
もらひたいのであります

(5) 米生産統計調査票の作成

ゴ
ボウ
ネ
ギ
レン
コン
ク
ワイ

果
日本梨
西洋梨
實
ブトウ

十月末日

收穫時期

尙米の生産調査にありては其の調査並
處理の順序に依り記載すれば左の通り
であります

米作農家一覽	調査期	報告期
八月下旬	九月十日	
作付反別調査	九月上旬	九月十日
基準票の作成	十月上旬迄	
調査票の作成	十一月中旬迄	
結果表の作成	十一月中旬迄	十一月 中旬迄

園藝農産物果實ノ二

(市町村報告期八月十五日限)

本表は農産物調査方法に依り調査員
實地調査の上提出したる集計表に依り
調製するものであります

樹数は結實の樹齡に達したもので
收穫皆無のものと雖總て調査致します

以上の總ての手續が終へたならば今
度は米生産統計調査票の作成にかゝる
のですがこれは農家毎の基準票の作付
反別を合計して調査票の作付反別欄に
記載するのです

收穫高欄は各農家に就き上欄の作付
反別に對する收穫高を記入せしむるか
又は聽取の上調査員に於て記入するか
の方法に依り調査記入するのですが、
此の場合その農家が他町村に米作を爲
して居たときは自町村内のみの收穫を
調査記入するのであるけれども若し他
町村に作付なく全部自町村内にのみ作
付して居る場合には全部の收穫高を調
査記入すれば宜いのです、此の欄は前
年も大分記入洩れのがあつた様です
から今年は特に注意してもらひたい

次に收穫高審査欄は農家に記入又は
農家より聽取した收穫高と基準票の算
出收穫高の合計と對照し決定するの
ですが、此れが決定を誤ると實に意外な
る收穫高となることがあるから、精農

其の他の柑橘類にはレモン、橙、柚、
金柑、ブツシユカン等總てを含みミカ
ンは含まないのであるから注意せられ
たい

水稻作況

(市町村報告期
八月十八日限)

本表は八月十五日現在に依り調査の
上八月十八日迄に縣へ報告するのであ
ります。

この調査で作況と云ふのは作付段別
の増減に何等關係なく單に作柄の良否
を指すのでありますから水稻の生育狀
況を實際に巡視して左の五つの標準に
依つて何れかその一つを表示して報告
するのであります

「普通作況」とは前五ヶ年間に於け
る中庸の作柄を、「稍良」とは普通作況
に比し増收五分以内の見込の場合を、
「良」とは普通作況に比し増收五分を
超ゆる見込の場合を、「稍不良」とは普通
作況に比し減收五分以内の見込の場合
を、「不良」とは普通作況に比し減收五

分を越ゆる見込の場合を謂ふのであります

この報告は極めて迅速を要しますから若し八月十八日までに報告書到達せざる見込の町村は電信又は電話を以て報告する様御手配を願ひます。

□夏秋蠶繭豫想掃立數量

(市町村報告期九月五日限)

本表は九月一日現在で区内各飼育者に就き調査し養蠶調査方法に依つて作成する夏秋蠶調査原簿を基礎として豫想掃立數量を作製するのです、五月號實務道場にも載せてありますからこれを参照せられ誤りのない様に願ひます。

□園藝農産物蔬菜及

花卉の一

(市町村報告期九月十五日限)

本表はエンドウ、ソラマメのみについて農産物調査方法に依り調査員が實地調査の上提出したる調査集計表に依

り調製するもので成熟したる時の數量について調査することになつて居ります併し實際は未成熟のまま食用に供せられるものが多いがその場合には成熟したるときの數量に換算して算出計上することになつて居ります

今参考として生の量を成熟した時の石數に換算する割合を示すと大体左記の通りになります

生一貫に付(エンドウ八合乃至 九合 ソラマメ一升内外)

□米第一回豫想收穫高

(市町村報告期九月二十三日限)

本調査は九月二十日現在に依り調査の上本表作成九月二十三日迄に本廳へ書類到達する様急速報告せねばなりませんから特に報告期限を厳守して下さい

本表の作付反別は調査員が豫め八月中に縣細則(米生産統計調査方法)の調査方法により耕地一筆毎に實地調査した段別を集計して作付反別欄に計上す

るのであります

豫想收穫高は受持調査区内に於ける作柄状況を巡回調査し且つ精農家數名の意見を徴して水稻及陸稻に付粳米糯米別に早中晩毎に上中下の階級に別ちて各一反歩當の豫想收穫高を決定して夫々該當の段別に乘じ其の市町村の豫想收穫高を算出するのであります但し無收穫見込反別があれば之を控除せねばなりません

前年收穫高は前年の實收高を計上すべきものですから誤つて前年豫想收穫高を計上せぬ様注意を要します

備考欄には前年に對する増減の事由は勿論所定の事項殊に天候の變化病虫害の有無災害等は最も重要な事柄でありますから具体的に説明する様願ひます。

□米作農家戸數調

(市町村報告期九月二十三日限)

米作農家戸數は九月二十日現在を以て調査の上即ち米第一回豫想收穫高

表と同時に九月二十三日限報告するの

でありましたが前年の例に徴すると誤調等が有りまして照復を累ね事務の進歩を阻害するものあるは遺憾とする所であり、米生産統計調査は各經營農家毎に調査する規程上から見ても本調査は其の基本を爲すものでありますから今年度こそは最も適確なる調査を遂げられる様致したいのであります尙左に特に注意すべき事柄を掲げて参考に供します。

(一) 本年度からは米作農家數と米作準農家數とを調査すればよろしい事に今回農林省で改正しましたので縣に於ても六月二十四日附統收第八一號例規通牒を以て各市町村長宛に通牒して置きましたから誤りのない様調査して頂きます

(二) 米作農家と米作準農家との區別は農林省統計報告規則取扱細則の米生産統計調査取扱方第四の(二)項後段に明示されてありますから此の區分を誤ら

ぬ様御注意を願ひます

(三) 米作農家及米作準農家は其の經營する耕地所在の如何に關せず總て世帯若しくは事務所の在る市町村にて調査計上すべきものです

(四) 米作農家を計上するに當りまして米作農家一覽を其の儘利用する事のない様にせられたい即ち米作農家一覽へは他調査區より來りて耕作する者迄掲げてありますので其の農家戸數を重複計上する様な虞れがあります故必ず實地に就いて調査せらるゝ様に注意を願ひ度いのです

(五) 前年に對する増減事由及米作準農家の名稱は必ず備考へ記入して頂きたいのです(前年とは昭和九年九月二十日現在調査に依るものを云ふ)

□夏秋蠶繭豫想收穫高

(市町村報告期九月末日限)

本表は九月二十五日現在に依り受持区内の各飼育者毎戸に就いて實際の状況を調査し尙營業者の意見をも徴して其の区内に於ける蠶種一瓦當の豫想收

滿量を決定し之に掃立數量を乘じて豫想收穫高を算出するのですが若し無收穫見込數量ある場合には其れを除外した掃立數量に乘じて算出するので、前年收穫高欄へは前年夏秋蠶表に記載した、實收穫高(上繭、玉繭、屑繭を合計した總收穫高)を計上するのであつて前年の豫想收穫高を計上せぬよう注意を願ひます備考欄には前年收穫高に對する増減事由の外に氣候の適否、飼育の経過及桑葉の過不足並に發育の状況等も必ず記載されたいのです。

□園藝農産物果實ノ三

(市町村報告期九月末日限)

園藝農産物果實ノ三(ウメ、モモ、オウトウ、ビワ)は農林統計報告規則取扱細則の夏季調査に屬するもので果樹園の部と果樹園以外の部とに分けて調査するので果樹園の調査は果樹園毎に調査し果樹園以外の部は各作人別に調査するのであります又樹數に就ては收穫の目的を以て栽培をなしたもののみを調査する規定なるも自然生のもの

雖も收穫の目的を以て手入其他の栽培行為を施し收穫を目的とするに至れるものは調査するのであります但し未だ結實の樹齡に達しないものは調査を要しないが、其の他は收穫期に現存する限り假令其の年結實せざりし場合と雖も凡て樹數に計入すべきものであります、收穫高は梅は枿(何升何合)にて其の他は目方(何貫何百匁)にて調査し且一本當收穫高及單價は其の年に依り多

少の相違はあるも前年に對し著しく相違の場合は備考に詳細説明を附されたい尙梅は各町村共殆んど栽培しあるに付調査洩れの無い様にせられたいのであります
 尙調査小票は必ず整理し統計事務監査の際持参するのであります。
 □製 茶
 (市町村報告期九月末日限)
 製造戸數は其の季節に於て製茶に従

事したる戸數を記載するのでありますから記載洩れない様にせられたい
 製茶は玉露煎茶紅茶其の他の茶に區別せられ各其の製法に依り夫々區別記載するのであります前年の報告に徴すると粉茶を其の他の茶欄に記載しあるも其他の茶欄には正茶、磚茶、烏龍茶、碁石茶等を記載すべきものであつて粉茶は各其の本茶に合算記載すべきものでありますから注意せられたい

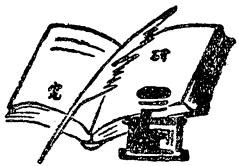
ゴハンを腐らせぬ方法

綠蔭の衣服、清流の一泳も夏の景物なら、物の腐敗もまた結構ならざる夏の一景物だ、わけても御飯の始末には、どこか家庭でも難儀するやうだが、そのゴハンを腐らせぬやうにするにはどうしたらいいか、御家庭の方々に御参考迄に、左に方法を摘記して見よう。

- (1) 米をよくとぐ事、そしてよく煮る事
- (2) おヒツを乾かして充分に温め、それに御飯をうつし、その上に乾いた布巾をかぶせてフタをする、

暫くして布巾を取りかへ、内側の水氣をふきとつておく、中頃に梅干一個を入れるのもよろしい、そして風通しのよい處へおく事

- (3) 御飯を炊く時に釜の中へ梅酢を少し落して炊くと眞夏でも三十時間以内何ともない
- (4) 新しいおヒツを使用する時は酢で内側をふくがよい、さうすると御飯の腐りも遅いし、木の香もしない
- (5) 御飯を炊く時の水は、汲み立てのものは早く腐敗するから汲みおきの水がよい



統計相談所

統計に關し疑問なり又は不明な点がありましたら
 〳〵御問合せ下さい
 〳〵誌上にて丁寧にお答へ致します

作付反別調査原簿

(問) 同一人が接續したる數筆の土地を耕作し、而も筆と筆との區劃全く不明瞭の場合は便宜作付反別調査原簿を右各筆を合併して置くも差支ないでせうか

農業保險基礎資料に依る 農産物被害表

(問) 左記の如き被害を蒙りたるときの損害價額算出方法詳細伺ひたし
 一、大麥刈取二十日前電害に依り收穫皆無となりたるときの損害價格

(答) 損害見積價額は被害當時の作柄に依る見積一反歩收穫高を被害當時の時價に乘し算出するのです

林野産物表

(問) 桑園整理の爲桑樹の根株を採採り木炭を生産しつゝあり、右木炭も林野産物として調査し備考に畑桑樹炭何貫目生産としていゝのでせうか
 (答) 御見解の通り林野産物として一般林野産物中に計入し尙備考に其の旨記載せられたい

養蠶表

(問) 養蠶表に關する統計に就ては從來調査員各養蠶家に就き小票に依り調査しつゝありましたが養蠶實行組合を設立したる町村にありては該組合長より統計報告を徴すれば最も正確なる數量を求むることを得るにより調査員各戸に就ての小票調査を省略し組合長より報告を求め統計表を作製して宜しいでせうか

(答) 從來通り各戸に就き小票を以て調査し更に養蠶實行組合長に就き誤なきや否やを照會することにせられたい

臨時國勢調査部

部長以下調査係任命

本年十月一日實施せらるべき國勢調査事務につき、本縣では去る五月十一日本縣訓令甲第二十二號を以て規程が公布され、同時に臨時國勢調査部が設けられ、部長には總務部長、副部長には統計課長が就任された尙五月十七日付を以て課員全部と文書課員三名が部員を命ぜられた。

興味の懸賞募集

國勢調査による ……本縣の人口は？

第四回目の國勢調査は今秋十月一日を以て行はれ、昭和五年の國勢調査後における我國の人口及び人口の構成が如何なる推移を辿つてゐるか、我が國勢が如何なる動向を示しつゝあるかと、この調査によつて明確にされる譯であります。

殊に今回の國勢調査は、方今の國狀に鑑みましても、極めて重要な意義を有するものでありますから、一層心して國家的大業の完成に努力せねばなりません、然らば我が茨城縣では既往五ヶ年間に如何なる變遷を來たしたでありませうか、人口はどれ位殖えたか、又減つたか、國狀の推移變遷と共に、縣民全體が關心を持つところの頗る興味ある問題とされてゐます。

即ち昭和五年の國勢調査によつて調べあはれた本縣の人口は百四十八萬七千九百七十七人でありました。之を大正十四年十月に行はれた國勢調査に比べますと七萬八千五百人の増加となつてゐます。しかして昭和九年十月一日現在を以て各市町村において調査しました本縣の

現住人口は百五十七萬二千八百二人

となつてゐますが、今度の國勢調査で、どう變化するか、之は十月一日午前零時の調査の結果によらねば神様でも判らないのです、之を左記規定に依つて廣く皆さんと共に豫想したいと思ひます、「はがき」一枚で済むことです、奮つて應募されたい。

應募規定

- 一、問題 昭和十年十月一日の國勢調査に依る茨城縣の人口
- 二、應募 一人一枚
- 三、期限 昭和十年九月三十日限り
- 四、用紙 「郵便はがき」にて住所氏名を明記すること
- 五、宛名 茨城縣廳内茨城縣統計協會
- 六、賞 一等 拾圓 一人
二等 五圓 二人
三等 參圓 三人
等外 十人
- 七、審査 (1) 審査長は統計課長とし、同課員を審査員とする
(2) 審査の結果適中者多數あるときは抽籤により當選者を定む
(3) 若し適中者なき場合は最も近きものより順次當選者を定め是亦同數者ある時は抽籤による但し差數二千を越ゆる時は入選せしめざることあるべし
- 八、決定人口 内閣統計局の結果速報人口に依る
- 九、發表 茨城統計誌上に於て發表す

本縣の宣傳スポタ

國勢調査



昭和十年

十月一日

調査洩れ十年間は亡者なり
昨日來て明日行く人も數に入れ

自己を偽るは國家を偽る
上手に書くより正直に書け

昭和十年國勢調査は十月一日午前零時の現在に依り帝國版圖内に現在する者に付左の事項を調査するのであります

- 一、氏名
- 二、男女の別
- 三、出生の年月日
- 四、配偶の關係
- 五、常住地